



ここが違う、ここがすごい、最新機能を徹底比較

機能面ではほとんど横一線に並んだ、ネットスケープナビゲーター3.0とイン

ターネットエクスプローラ3.0。実力の均衡した2つの最新のブラウザの前に、

「ユーザーはどちらを選べばいいのか」、「ホームページ製作者はどちらを基準にページを作成すればいいのか」、などの疑問は深まるばかりだ。

そこで編集部ではこれらの疑問に答える第1段階として、2つのブラウザの実力、互換性などを徹底比較してみた。題して、緊急企画「ネットスケープナビゲーター3.0 vs インターネットエクスプローラ3.0」、ブラウザ戦争の行方を占うガイドブックにしてほしい。

【比較条件】現時点ではインターネットエクスプローラ3.0はウィンドウズ95、ウィンドウズNT版のみのリリースとなっている。したがって今回は、両ブラウザがサポートしているウィンドウズ95での動作を比較する(ネットスケープナビゲーター3.0は、ウィンドウズ、マッキントッシュ、UNIXなど多数のプラットフォームをサポートしている)。



最新企画
対決

ネットスケープナビゲーター3.0 VS インターネットエクスプローラ3.0

- Battle Menu** ROUND 1 便利な機能をチェック ROUND 2 プラグイン vs ActiveXコントロール ROUND 3 Javaスクリプト vs ActiveXスクリプト
ROUND 4 マルチメディア ROUND 5 最新のHTML拡張 ROUND 6 「違い」と「すごい」を総まとめ

日本語インターネットエクスプローラ3.0正式版

CD-ROM収録先: Win Msie30

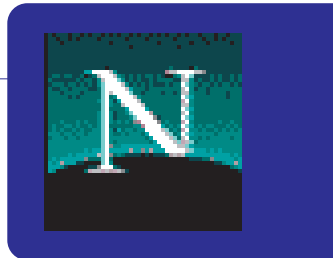
ネットスケープナビゲーター3.0正式版

入手先 URL http://home.netscape.com/comprod/mirror/client_download.html

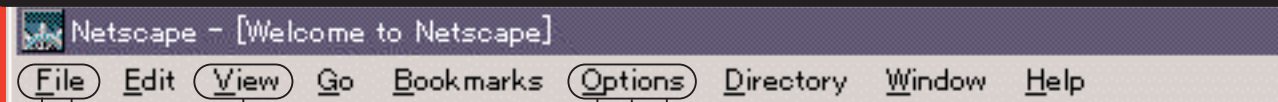
illustrator: Ebisu Yoshikazu

便利な機能をチェック

ブラウザを比較するうえで、操作性は大きなポイントになる。よくアクセスするページを登録しておくブックマーク、世界中のページを見るための言語サポート。また、ホームページ制作者にとっては、HTMLソースの表示方法なども気になる点だ。ROUND 1では、3.0から新たに加わった新機能を中心に、両ブラウザの操作性を比較してみよう。
まずは、メール、ニュース、FTP機能を標準で装備した多機能ブラウザ「ネットスケープナビゲーター3.0」の便利な機能を紹介する。



インターネットツールを1つにまとめた多機能ブラウザ ネットスケープナビゲーター3.0



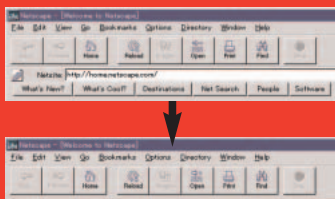
フレーム対応メニュー

- New Web Browser Ctrl+N
- New Mail Message Ctrl+M
- Majl Frame...
- Open Location... Ctrl+L
- Open File... Ctrl+O
- Save Frame As... Reload Ctrl+R
- Upload File... Reload Frame
- Page Setup... Load Images Ctrl+I
- Print Frame... Refresh
- Print Preview
- Document Source
- Document Info
- Close
- Frame Source
- Exit
- Frame Info

ネットスケープには、フレームに対応した便利な機能がいくつか用意されている。「File」メニューの「Mail Frame」は、選択したフレームをHTMLファイルとしてメール送信する。「Print Frame」は選択したフレームを印刷する。「Save Frame As...」は選択したフレームを別名で保存する。「View」メニューの「Frame Source」は選択したフレームのHTMLソースを表示する。

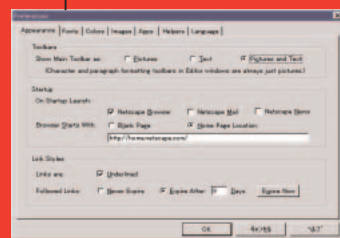
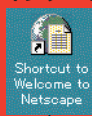
ツールバーのカスタマイズ

「Options」メニューの「Show Location」、「Show Directory Buttons」のチェックをはずすと、それぞれの領域が表示されなくなる。



インターネットショートカットの作成

鎖のアイコンがついたボタンをマウスでデスクトップにドラッグアンドドロップすれば、表示されているページのショートカットが作成される。



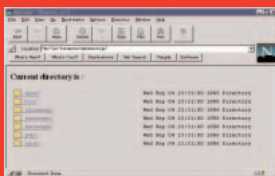
スタートページの登録

ブラウザを起動したときに最初にアクセスするページは、「Options」メニューの「General Preference」を開き、「Browser Start With:」のテキストボックスにURLを入力すれば変更できる。初期設定ではネットスケープ社のホームページが登録されている。

言語の変更

ブラウザで表示される言語の変更は「Options」メニューの「Document Encoding」で行う。ネットスケープは標準で、西ヨーロッパ言語、日本語をはじめ9か国語をサポートしている。ただし、文字の表示は使用しているOSに依存するので、日本語ウィンドウズ環境では、日本語と西ヨーロッパ言語以外の表示はできない。

Javaアプレットがうまく動作しないときは、Western(Latin1)にしよう。



FTP機能

- Open Location... Ctrl+L
- Open File... Ctrl+O
- Save As...
- Upload File...

ネットスケープはFTPクライアントとして、ファイルのダウンロードだけでなく、アップロードもできる。ファイルをサーバーにアップロードするには、サーバー内の目的のフォルダーをクリックして「File」メニューの「Upload File」をクリックすればよい。次に、どのファイルをサーバーに送るかを選択すればアップロードが始まる。



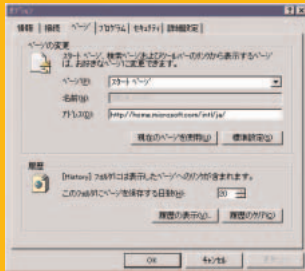
メールソフトの起動

ネットスケープには標準で電子メール機能が組み込まれている。この手紙の絵のボタンを押すとメールソフトが起動して、電子メールの送受信ができる。



圧倒的多数のユーザーに使用されてきたネットスケープは、その操作性においてもこれといって不満はない。この強敵を前にして、インターネットエクスプローラはどのような機能で対抗するのか。マイクロソフト社が最も強調しているのは「カスタマイズ性」だ。ツールバーをマウスのドラッグで簡単に変更でき、お気に入りのリンクボタンも登録できる。ネットスケープを使い慣れたユーザーにとって、「インターネットエクスプローラ3.0」は使いやすいブラウザなのか？早速見ていくことにしよう。

好みに合わせてブラウザをカスタマイズ インターネットエクスプローラ 3.0



スタートページ、検索ページ、クイックリンク
「表示」メニューの「オプション」から「ページ」を選択すると上の画面になる。ここでスタートページと検索ページ、クイックリンクを設定できる。登録したいページにアクセスして「現在のページを使用」をクリックすれば、URLを入力することなく登録が完了する。またクイックリンクとして登録すると、ツールバーの「リンク」ボタンが自分の好きなページへのジャンプボタンになる。

「お気に入り」の追加と整理
表示しているページを「お気に入り」メニューに登録する際に、自分の好きな名前を付けられる。



フォントサイズの変更
ブラウザで表示されるフォントのサイズは、「フォント」ボタンをクリックするだけで変更できる。



ツールバーのカスタマイズ
ツールバーの上にマウスカーソルをのせ、↑や手の形になったところでドラッグすれば、ツールバーを好みのサイズに変更できる。

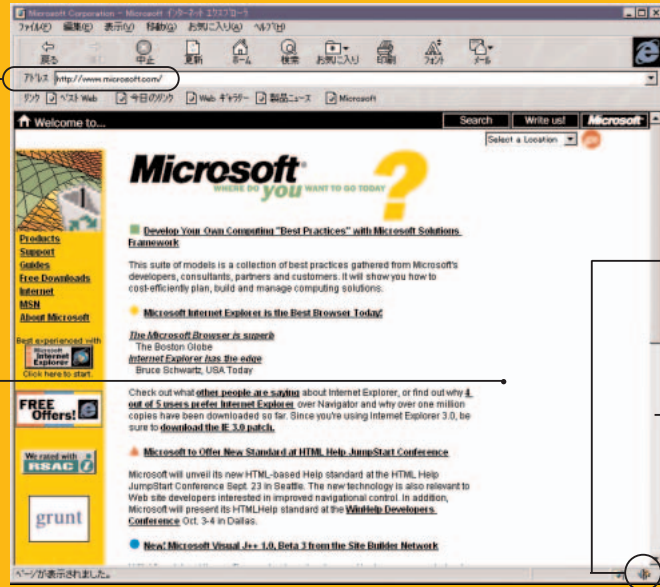
アドレス

検索ページに行かずに簡単検索
普段はURLを入力する「アドレス」欄に、「find」につづけて検索したいキーワードを入力すると、日本のYAHOOページにジャンプして検索結果が返ってくる。例えば、ショックウェーブについて検索したければ、上図のように「find shockwave」と入力して、「Enter(Return)」を押せばよい。

- 名前を付けて背景を保存(Ⓞ)、デスクトップの壁紙として設定(Ⓞ)
- 背景のページ(Ⓞ)
- すべて選択(Ⓞ)
- ショートカットの作成(Ⓞ)
- お気に入りに追加(Ⓞ)
- ソースの表示(Ⓞ)
- 最新の情報を更新(Ⓞ)
- アノハイ(Ⓞ)

フレームのソース表示
フレームを使ったページでは、それぞれのフレームの上で右クリックをして「ソースの表示」を選択すればHTMLソースが表示される。

「お気に入りの整理」ウィンドウでは、登録されたサイトをフォルダー単位で簡単に整理できる。



言語の変更
右下の地球と旗の絵のボタンを押すと、ブラウザで表示される言語の変更ができる。表示可能な言語を追加するには、マイクロソフト社が無料で配布している「国際化拡張キット」というキットをセットアップすればよい。国際化拡張キットの入手先
URL <http://www.microsoft.com/mdownload/ieadd/03.htm>

- 日本語 (自動判別)
- 日本語 (JIS)
- 日本語 (EUC)
- 日本語 (Shift JIS)
- 欧文 (Windows-1252)

スムーズスクロール
スクロールバーのレールの部分をクリックすると、ページがなめらかにスクロールする。この機能を使うには、「表示」メニューの「オプション」から「詳細設定」を選択し、「スムーズスクロールの使用」をチェックすればよい。

プラグイン **VS** ActiveXコントロール 入手方法とセットアップ方法の違いは？

【比較方法】

プラグイン対応とActiveXコントロール対応のページに、これらをセットアップしていない状態でアクセスして、どのようにセットアップが進むかを比較する。

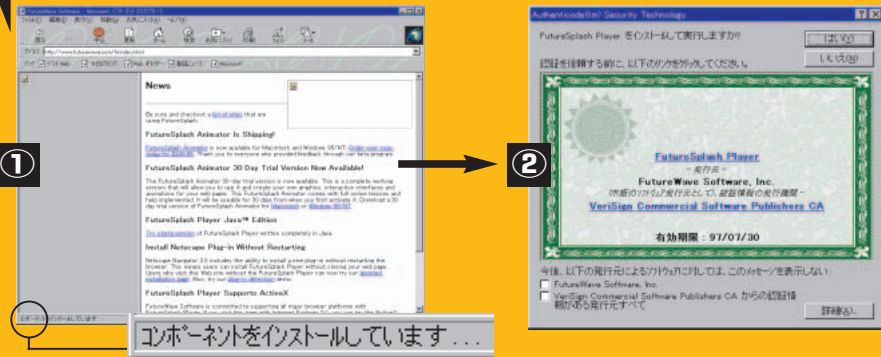
ブラウザの機能を拡張するという意味では、ネットスケープの「プラグイン」とインターネットエクスプローラの「ActiveXコントロール」は同じものと言える。また、ネットスケープにプラグインがセットアップされていれば、インターネットエクスプローラはそれを利用してファイルを再生できる。同じように見える両者の違いを決定的にしたのは、マイクロソフト社が開発した、「オートインストール」機能だろう。オートインストールはユーザーにとって、本当に便利な機能なのか、ROUND2では、両者の入手方法とセットアップ方法の違いに焦点をあててみよう。

エクスプローラ対応サイトにアクセス

フューチャーウェーブソフトウェア社のホームページ

URL <http://www.futurewave.com/fsindex.html>

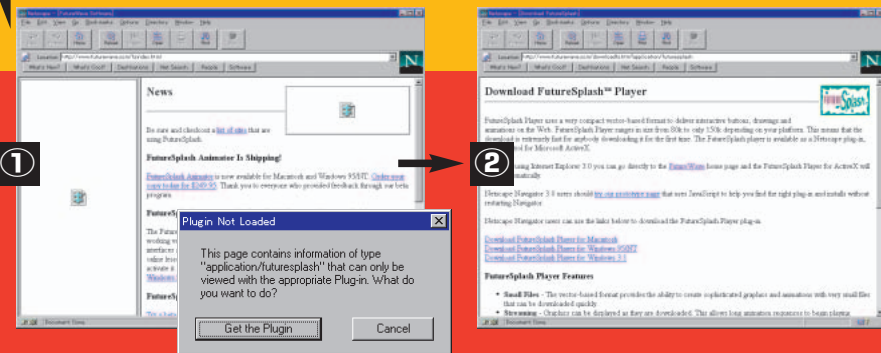
インターネットエクスプローラの場合(ActiveXコントロール対応サイト)



ページにアクセスすると、左下に「コンポーネントをインストールしています」と表示され、自動的にフューチャースブラッシュActiveXコントロールのダウンロードが始まる。

フューチャーウェーブソフトウェア社の制作したセットアップファイルに、不正な変更が加えられていないという認証が表示される。ここで「はい」をクリックすると、セットアップが終了し、フューチャースブラッシュのアニメーションが表示される。

ネットスケープナビゲーターの場合



ページにアクセスすると、「Plugin Not Loaded」のメッセージが表示される。ここで「Get the Plugin」をクリックする。

「Download FutureSplash Player」というページにジャンプする。ここからフューチャースブラッシュプレイヤーをダウンロードし、入手したファイルを起動してセットアップを行う。その後、ネットスケープを再起動して、最初のページにもう一度アクセスするとフューチャースブラッシュのアニメーションが見られる。

従来のプラグインサイトにアクセス

CBSニュースページ

URL <http://uttm.com/vdo/welcome.html>

インターネットエクスプローラの場合(ActiveXコントロール非対応サイト)



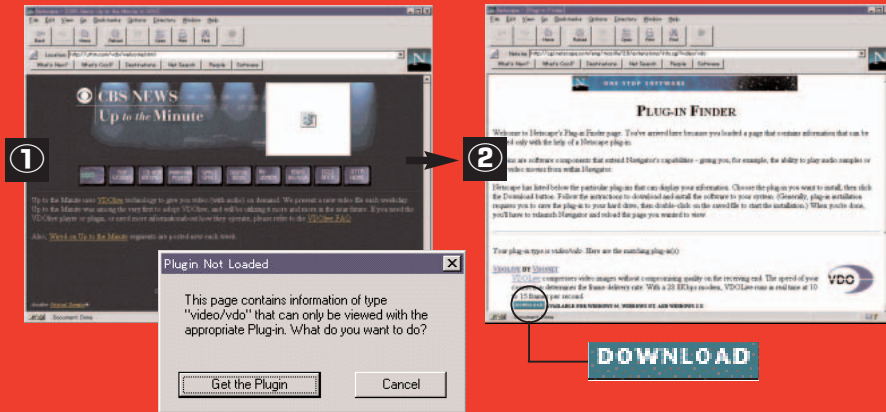
ページにアクセスしても何も起こらない。VDO Liveビデオプレイヤーが表示される部分をクリックすると、「オブジェクトハンドラ検出エラー」と表示される。ここで「はい」をクリックすると、ActiveXコントロールの一覧ページにジャンプする。ここから必要なコントロールを自分で探してダウンロードする。

● VDO Liveビデオプレイヤーをインターネットエクスプローラで動作させるにはプレイヤーのダウンロードサイトにある「npvdo32.dll」というファイルを手直し、Microsoft Internetフォルダーの中のPluginsフォルダーにコピーする。

VDO Liveビデオプレイヤーとnpvdo32.dllの入手先

URL <http://www.vdo.net/cgi-bin/ftpflip.cgi?1&1&e&/pub/vdoxb2.exe>

従来のプラグインサイトにアクセス



ネットスケープナビゲーターの場合

CBSのニュースページにアクセスすると「Plugin Not Loaded」のメッセージが表示される。ここで「Get the Plugin」をクリックする。

ネットスケープ社の「PLUG-IN FINDER」というページにジャンプする。ここに必要なプラグインの情報が表示されていて、「DOWNLOAD」アイコンをクリックすればVDOnet社のダウンロードサイトに行く。ここからVDOliveビデオプレーヤーを入手し、その後は、セットアップ、ネットスケープの再起動となり、214ページのネットスケープの場合と同じ手順になる。

結果レポート

プラグイン (ネットスケープナビゲーター)

メリット どのプラグインが必要なのかを的確に表示し、ユーザーを入手場所（ネットスケープ社のPlugin Finderまたはプラグイン配布元のホームページ）に誘導する。

デメリット プラグインをセットアップしたあとブラウザを再起動するため、ページの表示が中断される。

ActiveXコントロール (インターネットエクスプローラ)

メリット オートインストールが行われると、すぐにファイルの再生が始まる。ユーザーは面倒なセットアップ作業から解放される。

デメリット すべてのサイトがオートインストールをサポートしているわけではない。オートインストールが行われない場合、ユーザーがコントロールの入手場所をさがす。

- オートインストール対応、非対応の分かれめ<OBJECT>タグを使って
<OBJECT
codebase="http://www.futurewave.com/fsplash.cab#version=1.0.1.0">
</OBJECT>
のようにセットアップファイルの場所を記述してあるサイトでは、ActiveXコントロールのオートインストールが行われる。CBSのページのように<EMBED>タグを使い、セットアップファイルの場所を明記していないサイトではこの機能は動かない（ただし、シヨックウェーブのように、タグに関係なくオートインストールが行われるActiveXコントロールもある）。
- マイクロソフト社はW3C（World Wide Web Consortium）とともに、プラグインを使ったサイトでは、<OBJECT>タグを使用することを推奨している。

ROUND 3

両ブラウザともJavaアプレットに対応し、Just-In-Time（JIT）コンパイラを使用することでアプレットの表示速度も向上した。スクリプト言語を使用した拡張機能として、ネットスケープナビゲーターは、Javaスクリプト、Javaアプレット、プラグインを同期させて動作させる「LiveConnect」機能を加えた。これに対してインターネットエクスプローラは、HTMLコードにVBスクリプトをはじめ、さまざまなスクリプト言語を埋め込める「ActiveXスクリプト」をサポートした。はたして、これらの独自拡張機能は互換性のあるものなのか。どちらのブラウザ使っても、問題なくページを見られるのか。これがROUND3のテーマだ。

Javaスクリプト **VS** ActiveXスクリプト 独自拡張されたスクリプト言語の互換性は？

ネットスケープナビゲーターの場合



LiveConnect機能を使ったネットスケープ社のプロモーションページ。ビデオやJavaスクリプトが同時に動作し、音楽も流れる。インターネットエクスプローラでは「Tour Start」をクリックしても何も起こらない。
URL http://home.netscape.com/comprod/tour/nav3/tour_home.html（Tour Startをクリック）

インターネットエクスプローラの場合



VBスクリプトとActiveXコントロールを駆使した派手なページだ。ここではいくつかのコントロールが自動的にインストールされる。ネットスケープでは何も表示されない。
URL <http://www.cts.com/browse/jwalk/vbs/ugly/main.htm>

マルチメディア

再生可能なファイル形式とタグ表記の違いは?

ネットスケープナビゲーターの「plus components」バージョンには、ライブオーディオとライブビデオが付属している。また、インターネットエクスプローラには、追加コンポーネントとしてActiveムービープレーヤーが用意されている。これによって、両ブラウザともにマルチメディアの表現力が強化された。動画や音声を使ったホームページ作成が比較的簡単になってきた今、マルチメディアのサポートは気になるポイントだ。ROUND4では、ページを見る側と作成する側の両面から、マルチメディアの対応状況を比較してみる。

【比較方法】

同じ形式のファイル
をページに埋め込む
のに、ブラウザによ
って記述方法がどう
違うか、その結果ど
のように表示される
かを見ていこう。

比較サイト ミッション・インポシブルのホームページ

URL http://www.missionimpossible.com/index_frm.shtml

ネットスケープナビゲーターの場合

インターネットエクスプローラの場合

サウンド



ライブオーディオのカラフルなコントロールがページに埋め込まれている。

『AIFF』、『AU』、『MIDI』、『WAV』の各ファイルの再生ができる。このサイトでは、<EMBED>タグを使用して、ライブオーディオをページの中に埋め込んでいる。<A>タグでリンクを張った場合は、ヘルパーアプリケーションとして別ウィンドウが表れる。また、Javaスクリプトを使った記述もできる。



Activeムービープレーヤーのコントロール。バーをスクロールさせると、好きな所から再生できる。

『AIFF』、『AU』、『MIDI』、『WAV』の各ファイルの再生ができる。<EMBED>、<A>タグのほか、<OBJECT>タグに対応している。また<BGSOUND>タグを使用すれば、プレーヤーのコントロール部を表示させることなく、BGMとして音声の再生ができる。

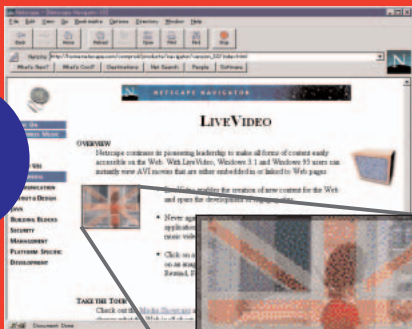
URL http://home.netscape.com/comprod/products/navigator/version_3.0/

URL <http://www.microsoft.com/ie/most/howto/mediahtm.htm>

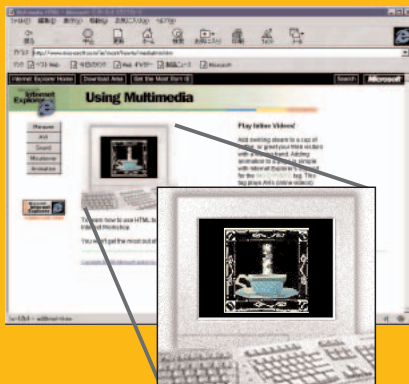
ネットスケープナビゲーターの場合

インターネットエクスプローラの場合

動画



『AVI』ファイルの再生ができる。サウンドファイルの場合と同様、<EMBED>タグ、<A>タグ、またはJavaスクリプトで記述する。



『AVI』、『MPEG』、『MOV』の各ファイルの再生ができる。、<EMBED>、<A>、<OBJECT>の各タグで記述する。『MOV』(QuickTimeムービー)のHTMLソースについてはActiveムービープレーヤーを参照してほしい。

Activeムービープレーヤー (インターネットエクスプローラ)

① CD-ROM収録先: Win Activmov
オールラウンドなマルチメディアプレーヤーを楽しむためのポイント

インターネットエクスプローラの追加コンポーネントであるActiveムービープレーヤーは、AVI、MPEG、MOV、AIFF、WAV、AU、MIDIの各ファイルを再生できる。さらにファイルのダウンロード中でも、ハードディスクにコピーした所まで再生できる「Progressive Playback」という便利な機能をサポートしている。

② **ポイント1** 『MOV』形式のファイル(QuickTimeムービー)をHTMLタグで記述する場合、<EMBED>

タグと<A>タグを使うと、QuickTimeプラグインがなければ再生できない。<OBJECT>またはタグを使おう。タグの書き方が分からなくても、ActiveXコントロールパッドを使えば簡単に動画を埋め込める。

ActiveXコントロールパッド

③ CD-ROM収録先: Win Activex

④ **ポイント2** 『MOV』ファイルと『MPEG』ファイルを再生しようとするとき「不正な処理」のエラーがでることがある。この場合、ディスプレイドライバーをVGAか、メーカーが提供する最新バージョンのものに変更してみよう。



QuickTimeムービーをホームページの中に埋め込める。

最新のHTML拡張 進化するホームページレイアウト

【比較方法】

両ブラウザのホームページでは、独自のHTML拡張を駆使したデモページが用意されている。ここで、HTMLレイアウトがどこまで進化しているかを体験しよう。

HTML 2.0と3.0が標準なのか、ネットスケープが標準なのかを答えるのは難しい。例えば、フレームという機能は、現在W3Cが開発中のHTML 3.2にも含まれていないが、多くのホームページで使用されている。インターネットエクスプローラ3.0の登場は、これにもう1本の軸を加えることになりそうだ。ホームページをDTPの領域まで拡張する「スタイルシート」は、ページデザイナーにとって、互換性を捨てても取り入れたい機能に違いない。ROUND5では、最新のHTML拡張の中から、特に強力な機能を紹介しよう。

ネットスケープナビゲーターの場合



<MULTICOL><SPACER>を使ったサンプルページ

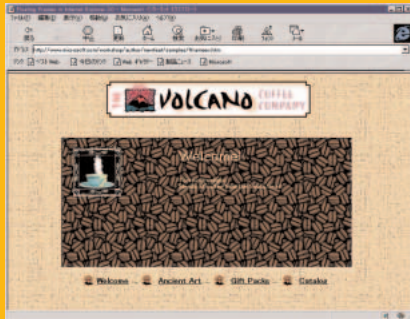
<MULTICOL>と<SPACER>

<MULTICOL>タグを使うと、新聞のレイアウトのように、段組みを使ったページの作成ができる。アトリビュート(属性)タグとして、段組みの数を決める「COLS」、段と段の間隔をピクセル単位で表す「GUTTER」、1段の幅を定義する「WIDTH」がある。これまで段組みの効果には枠線のない表を使用していたが、<MULTICOL>タグはこれに

サンプルページ URL http://home.netscape.com/comprod/products/navigator/version_3.0/layout/examples/investment/

比べて数倍簡単に段組みを作成できる。<SPACER>はインデントや行間を調整するタグだ。アトリビュートタグには、インデントを定める「HORIZONTAL」と、行間を定義する「VERTICAL」がある。どちらもネットスケープ独自の拡張タグだ。

インターネットエクスプローラの場合

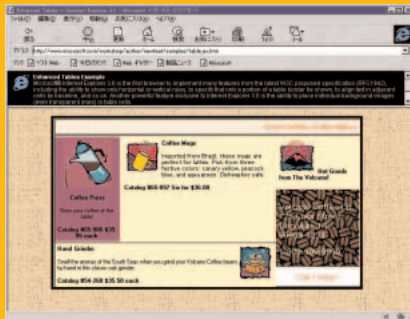


<IFRAME> (フローティングフレーム)

フローティングフレームを使えば、左図の茶色の部分のように、ページの中に別のURLのページを埋め込める。自分のホームページの一部に、別のホームページを埋め込むといった演出ができるわけだ。また、フローティングフレームを使用する場合、フレーム内に余白を作りたくなければ<BODY TOPMARGIN=0 LEFTMARGIN=0>と記述すればよい。このほかにフレーム拡張タグとして、フレームの

スクロールバーや境界線を完全に消してしまう、<FRAMEBORDER=0>と、<FRAMESPACING=0>がある。

● W3Cは、近い将来フレーム機能を標準タグにする予定と発表している。



<TABLE>拡張機能

表を使わない段組みをサポートしたネットスケープとは対照的に、インターネットエクスプローラは<TABLE>タグに多くの拡張機能を取り入れた。<TABLE(TD) BACKGROUND>タグを使えば、表の背景やセルごとに画像を貼り込める。また、表の罫線に色を付ける「BORDER COLOR」、罫線に影を付ける「BORDER COLORLIGHT」と「BORDER COLOR DARK」の各アトリビュートをサポートした。左の画面で

はさらに、「RULES」アトリビュートを使って、表の行や列ごとに罫線の有無を定義している。「RULES」アトリビュートはHTML 3.2に含まれる予定(HTML 3.2は協議中の規格で、現在いくつかのタグが発表されている)。



<STYLE> (スタイルシート)

HTML 3.2に含まれる予定のスタイルシートは、今回紹介するHTMLの中で最も強力な機能だ。<STYLE>タグを使えば、フォントのサイズと種類、文字の色、背景の色、マージン幅などを自由に設定できる。さらに左の画面のように、「レイヤー」機能を使って文字の上に透明の文字を重ねて表示することもできる。これまでAdobe社のアクロバトリーダーなどを使わなければ表示できなかった、レイアウトの複雑な文書が、HTMLで

作成できてしまうわけだ。問題は、現在この機能をサポートしているのがインターネットエクスプローラだけという点だ。しかし、かつて「Get Netscape」と表示してフレームを使い始めたように、「インターネットエクスプローラ対応」のマークをつけて、スタイルシートを駆使した美しいページを作成するデザイナーが増える可能性もある。

サンプルページ URL <http://www.microsoft.com/workshop/author/newfeat/ie30html-f.htm>

「違い」と「すごい」を総まとめ

こんなに違う独自拡張の表示

【比較方法】
ライバルの制作したホームページに乗り込んで、相手の拡張機能の表示に挑戦する

Round 1からRound 5までいろいろな角度から2つのブラウザを比較してきたが、優劣の判定となると編集部でも「ネットスケープ派」、「エクスプローラ派」のように、好みによって真二つにわかれてしまう。だが、これまでの比較で「何が違うか」は、かなり明らかになったはずだ。結論として、どちらの拡張機能が一般的になるかは、どちらがより多くのシェアを持つかによると言える。ブラウザ戦争の行方は、ユーザーにとってますます目が離せないものになりそうだ。そこでラストラウンドは、この緊急企画のまとめとして、ユーザーやページ制作者にとってこの「違い」がどう影響するのかを、具体的に見ていこう。

インターネットエクスプローラ in Netscape.Com

ネットスケープナビゲーターの場合



URL http://home.netscape.com/comprod/products/navigator/version_3.0/
LiveConnectリンクをクリック

【使用機能】

JavaScript Javaアプレット LiveConnect

入力したテキストがランダムに動くJavaアプレットがメイン。左のフレームは、JavaScriptを使ったプログラムで、マウスを乗せると絵が変化する。<Script>タグの中で定義された<FRAMEBORDER=no BORDER=0>でフレームの枠線を消している。

Javaアプレットは問題なく動作する。大きな違いは、JavaScriptを使用した左のフレームがプログラムではなく、GIF画像になっている点だ。またインターネットエクスプローラは、<FRAMESPACING=0>を使用していないので、フレームの枠線が消えていない。

インターネットエクスプローラの場合



URL http://home.netscape.com/comprod/products/navigator/version_3.0/
Live3Dリンクをクリック

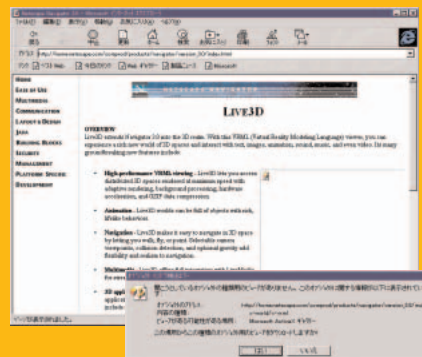
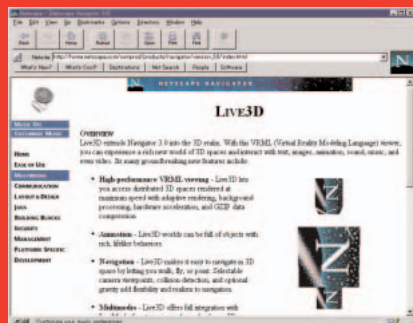
【使用機能】

Live3D対応VRML JavaScript

「plus components」バージョンのネットスケープに同梱されるLive3Dによって、VRML2.0のアニメーション画像が再生される。

ビューアーの部分には何も表示されず、クリックすると「オブジェクトハンドラ検出エラー」が出る。マイクロソフト社のVRML 1.0 ActiveXコントロールをセットアップしても同様にエラーが出る。

● インターネットエクスプローラは、ネットスケープにセットアップされたプラグインを利用して、対応ファイルを表示できる。このサイトでもネットスケープがセットアップされていれば、Live3D対応のVRML2.0ファイルを再生できる。



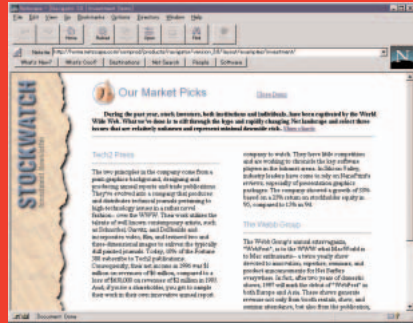
URL http://home.netscape.com/comprod/products/navigator/version_3.0/layout/examples/investment/

【使用機能】

<MULTICOL>タグ <SPACER>タグ

立体感のある左の様子は、GIF画像の背景とフレームを使用したもの。右のフレームでは<MULTICOL>タグを使い2段組みの構成になっている。インデントや行間設定は、すべて<SPACER>タグで行って

<MULTICOL>タグと<SPACER>タグに対応していないため、段組み、インデント、行間はすべて無視されている。インターネットエクスプローラは、<FRAMESPACING=0>を使用していないので、フレームの枠線が消えてい



ここだけは
ポイント獲得
決定!!

場外編

N ネットスケープナビゲーター

マッキントッシュやUNIXなど16のプラットフォームに対応

ネットスケープナビゲーターゴールドのWYSIWYGエディターによる編集機能

ポ
イ
ン
ト

e インターネットエクスプローラ

ホームページから無償ダウンロード。雑誌などのメディアでの無料配布

MS Officeドキュメントなどをアプリケーションごととオンライン表示

ポ
イ
ン
ト



ネットスケープナビゲーター in Microsoft.Com

インターネットエクスプローラの場合



URL <http://www.microsoft.com/ie/most/howto/mediavid.htm>

- 【使用機能】
- <OBJECT>タグ (Activeムービー)
 - ActiveXスクリプト (VBスクリプト)
 - フローティングフレーム

「Start the Show」ボタンを押すと、フローティングフレームになっている画像部分にActiveムービープレイヤーが現れ、MPEGビデオが再生される。一連の動作の関連付けはVBスクリプトで定義されている。

フローティングフレームに対応していないため、画像部分が表示されない。「Start the Show」ボタンを押しても、VBスクリプトを認識できないため、エラーメッセージが表示される。

ネットスケープナビゲーターの場合



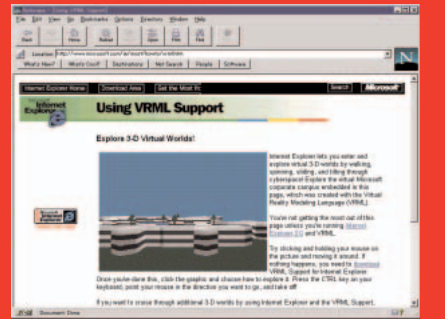
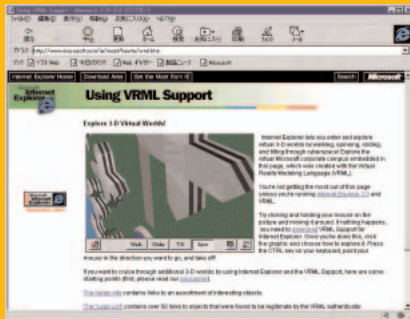
URL <http://www.microsoft.com/ie/most/howto/vrml.htm>

- 【使用機能】
- VRML

ページにアクセスすると、ビューアーが表示され、VRML 1.0の画像が再生される(VRML 1.0 ActiveXコントロールが必要)。CD-ROM収録先: Win_Vrml30。

Live3Dビューアーは起動せず、代わりにGIF画像が表示される。

- VRML2.0は、VRML1.0にアニメーション機能やサウンド効果を付加したものの、VRML1.0用のビューアーでは2.0ファイルは再生できないし、また、VRML2.0用のビューアーで1.0ファイルを正しく表示できないことがある。



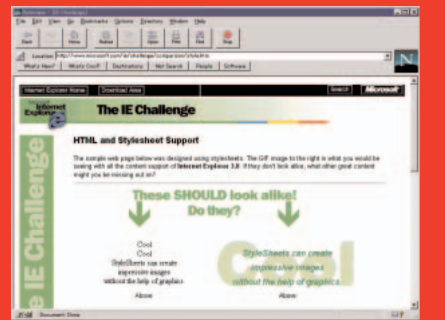
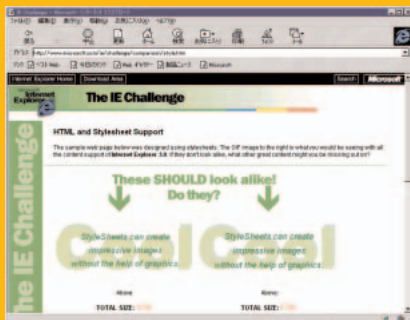
URL <http://www.microsoft.com/ie/challenge/comparison/style.htm>

- 【使用機能】
- スタイルシート
- <BODY TOPMARGIN=0 LEFTMARGIN=0>タグ

左右の「Cool」のうち、右側はGIF画像を貼り付けたものだが、左側はスタイルシートを使って文字を重ね合わせたもの。また、<MARGIN>タグによって、ページ上部と左側の余白を消している。

<STYLE>タグは無視され、装飾されていない文字が並んでいる。ページの余白も消されていない。

- 強力なスタイルシート機能だが、インターネットエクスプローラ以外のブラウザで表示すると、まったく違った見え方になる。制作者は注意が必要だ。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp